

韓国の中学校英語教科書における民族・文化意識

後 藤 田 遊 子

目 次

は じ め に

I. 韓国中学校英語教科書の概観

II. 題材と内容

1. 韓国および韓国人
2. 外国および外国人
3. 異文化交流

III. 韓国中学校英語教科書における民族・文化意識

1. 人間関係
2. 国・社会・文化

お わ り に

は じ め に

本稿は、韓国の準義務教育である中学校の英語教科書を分析して、民族観・文化観がどう意識され、表現されているかを考察する。韓国では日本と同様、英語は外国語である。中学生が外国語を学ぶことが、初めての疑似異文化体験・異文化交流だという観点からすると、題材に異文化体験・異文化交流を扱うことの多い英語教科書は特殊な教科書であり、中学生に与える影響は大きいものだと考えられる。それ故、国の教育方針は重要な指針となる。

韓国の『中学校教育課程』（日本の中学校学習指導要領にあたる）の英語教育目標は、基本的な英語を理解し、自分の考えを表現する、つまり、英語の運用能力を高めることが第一であるが、外国文化を正しく受容し、自国の文化を紹介する能力を育成することを目標としている。本稿では、具体的には、上記の目標のもとに編集された中学校英語教科書の題材と内容を整理し、そこに表現された人間関係、国・社会・文化という観点から民族・文化意識を分析する。使用する教科書は1987年に文教部（韓国の文部省にあたる）により公示された『中学校教育課程』に基づき検定合格した5種類の中学校英語教科書である。

ここで韓国の教育の現状を簡単に述べてみる。韓国の教育体系は日本と同じように6・3・3・4制である。義務教育は小学校までであるが、中学校の進学率は100%に近い。高校進学率も1980年代後半以降90%に近い数字を保っている。高校は大学進学を目指す一般系高等学校、就職を目指す実業系高等学校に分けられる。大学進学率は30%以上、大学院進学率ものびている。教育熱心、受験勉強の激しさといった点では韓国と日本はよく似ているが、韓国の受験競争の厳しさは日本以上のものである。韓国の教育熱の高さの理由の一つには学歴による賃金格差が大きいことがある。1980年代までは高卒と大卒の初任給は4対10だった（韓国教育開発

院) が、その後少しずつ較差は縮小されているようである⁽¹⁾。

韓国は1970年代に都市化と産業化が進み、国民の経済水準が上がったのにもなって急激に教育水準も上がっていった。教育を身につけることによって、少しでもいい職業につきたいという上昇志向の現われと思われるが、1980年代に入ると大学進学率が急上昇し、現在は、「現代韓国社会を象徴する社会現象」(滝沢、1988:88)とも言われるほどの学歴社会である。

1. 韓国中学校英語教科書の概観

使用する5種類の教科書は1988年に文教部の検定に合格し、1991年に初版が発行されたものである。太林出版社、東亜出版社、智学社、数学社Ⅰ、数学社Ⅱの4社、5種類であるが、教科書のタイトルはどれも同じ、Middle School English である。教科書はどれもA5版の大きさ、約220ページの厚さである。ここで、順を追って、教科書の構成を見てみる。

表紙のつぎのページには1968年の朴正熙大統領の時代に制定された「国民教育憲章」の全文が載っている。「私達は、民族中興の歴史的使命をもってこの世に生まれた。祖先の輝かしい精神を今日に蘇らせ、内には自主独立の姿勢を確立し、外には人類共栄に貢献する時である。ここに私たちの歩むべき道を明らかにし教育の指標とする。誠実な心と丈夫な体で学問と技術を学び覚え、生まれつきの各自の素質を啓発し、私達の立場を躍進の踏み台とし、想像の力と開拓の精神を養う。共益と秩序を優先させ、能率と実質をあげ、敬愛と信義に根ざした相扶相助の伝統を受け継ぎ、明朗で暖かい共同精神を育む。私たちの創意と協力を基に、国家が発展し、国の隆盛が私達の発展の根本であることを知り、自由と権利に伴う責任と義務を尽くし、自ら国家建設に参加し奉仕する国民精神をより高める。反共民主精神に透徹した愛国、愛族が私達の生きる道であり、自由世界の理想を実現する基盤である。永遠に子孫に受け継がれる栄光な統一祖国の未来を見渡し、信念と誇りを持った勤勉な国民として、民族の知恵を集め、絶えることの無い努力で新しい歴史を想像しよう」(洪賢秀 訳)⁽²⁾。

これは韓国の教育の基本方向を定めたものとして教科書には必ず載せられている。これが制定された時代を反映して、相次ぐ政治的混乱、南北分断、貧困問題といった現状を民族的試練と受けとめ、経済発展や、民族文化、民族精神を立ち直らせることが国民の歴史的使命であると謳っているのである。

「国民教育憲章」の次の4-5ページにその教科書に題材として使用されているアメリカの都市や、その他の外国の都市や公園などがカラー写真で紹介されている。

次のページには、序文が載っており、教科書の著者が英語学習の目標と教科書の特徴を述べている。各教科書に共通する序文の内容は、国際語としての英語を使い国際的な活動をする必要がある現代、英語の運用能力を伸ばすために、聞いて、話せて、読めて、書けるという4能力の達成を目標に教科書が編集されているということである。ここに智学社の序文を引用してみる。「今日、わが国は激しく変化する国際情勢の中で、先進国への仲間入りを目前にしている。1988年世界オリンピックの開催、世界で上位圏に属する国との交易国としての国力増大

で、国家間交流の必要性はますます高まっていく。国家間の緊密な協調と連帯関係をうまく行うには、国際語である英語の理解と活用が必要な要素である。国際語を通して、外国の文物を理解すると同時にわが国の文化を外国に紹介することで、英語が国際親善に役立つのはむしろ、わが文化の発展に貢献することとなる（中略）。この教科書の特徴は、1. 素材の選択：生徒が身の回りの生活で見聞きする内容を、読めることができる学習内容に発展させた。2. 聞いて話す練習：この教科書の各課は、Dialogue, Main Text, Comprehesion, For Study, Exercise, Role Play で構成されている。各部門で、聞いて話す能力を養成することを中心に置きながら、同時に内容を要約して英語で表現する段階に移行することができるようにした」（筆者、訳）^③。

序文の次のページは目次である。目次には各課のタイトルが出ているが、各教科書平均13課である。目次が終わると各課が始まる。各課には楽しいイラストがふんだんに描かれているが、平均16-17ページの各課は智学社の序文にもあるように、英語のダイアログ、本文、練習項目がぎっしりと詰まった構成である。どの教科書にも必ず、読んで理解する本文と、本文に関連したダイアログがあり、本文の内容について話してみようという構成になっているのが韓国の中学校英語教科書の特徴といえる。日本の教科書同様、ところどころのページに歌が盛り込まれているが、数はそう多くない。教科書の最後の数ページには Irregular Verbs (2、3年)、Word List が付録として出ている。韓国の中学校英語教科書に使用される単語の数は約1,100 (日本は約1,000) である。

中学校教育課程では、教科書に取り上げる題材に関して、1年では日常生活に関する話題、2、3年では日常生活と身近で一般的話題を取り上げるように指示してある。題材として取り上げられている場面設定はおおむね韓国である。登場人物は、韓国人とソウル在住のアメリカ人やその家族が主である。題材は、家族、友情、授業、スポーツ、ペンパル（アメリカ、カナダ、オーストラリア）、ジョーク、趣味、日記、等と幅広く身近な話題、その他に、伝記、物語、環境問題、そして外国についての話題が取り上げられている。外国に関してはアメリカが圧倒的に多い。

II. 題材と内容^④

韓国の中学校英語教科書の中から、民族・文化意識を読みとるために、次の2点に分析対象を絞って教科書を検討してみる。第1点は、登場人物の人間関係、特に、家族構成、家族の関係、そして友人関係について。第2点は、国、社会、文化（歴史、人物を含む）についてである。これら2点について分析するために、ここでは、1. 韓国および韓国人、2. 外国および外国人、3. 異文化交流の3つの項目で、教科書の題材と内容を整理してみる。

1. 韓国および韓国人

まず教科書に登場する中心人物と彼らの家族関係から見てみる。A-1、2、3では、ナムホという男子が中心となる登場人物である。ナムホは両親、祖父母そして、イラストから判断すると姉あるいは妹（A-1、L15）とソウルのアパートに住んでいるという設定である。ナムホには海

辺に母方の祖父母が住んでいて、休暇を利用して父が買ってくれたお土産を持って遊びに行く。彼は同居する祖父母も海辺の母方の祖父母も大好きなのである (A-2・L9)。B-1、2、3 には中心となる登場人物はいない。C-1、2、3 ではミンホという男子が中心的な登場人物である。ミンホは父の Mr. キム、母、弟のサンホと 4 人家族である。ミンホは家族で田舎の祖父母を訪れる。祖父は農業をしている。Grandpa is a big man with wide shoulders and white hair. He loves his grandsons and was very pleased to see them. (C-2・L9)。また、家族が中心になって、ミンホの誕生日に友達を呼んでパーティをする様子が描かれている (C-2・L11)。D-1、2、3 はインスという男子、E-1、2、3 はミンスという男子が中心的な登場人物であるが、家族関係の記述はない。その他の登場人物で家族に関する記述としては、スーチンという女子が、祖父母、両親と暮し、彼女は一人っ子である。父は小さな事業を営んでいる。母は主婦。祖父母は家の手伝いや庭いじりが日課である (A-1・L12)。次にユンホという男子が住む村は、20世帯、100人ほどで、彼は祖母、両親、妹と暮らしている。ある日曜日の午後、彼は畑へ出かけ、父親の手伝いを夕方までする (D-1・L11)。

家族関係で、親子、祖父母と孫、兄弟姉妹、に関する題材を取り上げてみる。

Mr. クオンはユニークな父親で、小学校 1 年の息子に読み書きを教えるために、息子に分からないように息子のペンパルとなって、指導をしている。He knows how to teach his child better than any other father. (B-3・L3)。カリフォルニアに韓国人の親と住むマイケル少年はアメリカの少年と同じようなスポーツを好むが、違う点は彼がテクンドー（韓国の空手）を習っていることである。彼は家では韓国語を話す。3 年前に祖父母が住む韓国を訪れて、韓国を誇りに思うようになった。更に韓国語も上達した。彼の父、Dr. 李は、そうした彼を見て、また彼が韓国のお土産に大極旗（韓国の国旗）を持ってきて、部屋に飾っているのを見て、ますます I'm very proud of my son. と息子を自慢に思う (A-2・L3)。韓国の民話として取り上げられた題材に、“A Korean Daughter” がある。韓国の昔話で、盲目の父を救うために自らを犠牲にして海に飛び込んだ父親孝行の娘の物語である (A-3・L10)。

祖父母と孫の関係は、先にも挙げたように、祖父母と接する内容が多い。ミンスは明日妹と釜山に住む祖父のところへ行くので、切符とお土産を買いに行く (D-3・L5)。秋の日、祖母と野菜畑でキムチ用の野菜を採りながら話をしている孫息子 (B-1・L11)。祖父に頼んで教訓話をしてもらう孫の兄妹。Their grandfather is known for clever ideas. (B-3・L4)。

次に、兄弟姉妹の関係をどのように描写しているかを見る。

Yong-su is often a teacher to Ch'ang-su. They always need each other. They always miss each other. They are good brothers. (A-1・L15)。姉が弟を公園に連れていく。公園の花を摘まないよう弟にさとす姉はいつも弟の良き指導者である。Chong-mi is always a wonderful teacher for her little brother. 姉と小さな弟との会話は次のように続く。“My little brother, the park is for everybody. It is for us. It is for those people, too.” “Is the park theirs and ours then?” “That's right. The park must always be beautiful and clean for

everybody.” (B-2・L3)。妹がバスケットボールをテレビで観戦していて、韓国チームがアメリカチームに負けそうなので、“They are out of luck today. That’s all”、と悔しがる。そんな妹をさとす姉。She wanted to tell her little sister that luck had little to do with the game. (B-2・L13)。弟にせがまれて文房具店に立ち寄ると、店員から弟のことを利口だと誉められる兄。理由を聞くと、Ki-ho, the lady told me, knew ways to keep his friends from buying things they do not really need. (B-3・L7)。ミンスはよく妹と野原へ散歩に行く。そこで、春の息吹をいっぱい感じるのである (E-2・L3)。

友人関係は、純粋に韓国人同士の友情に焦点をあてた題材は少ないが、以下に列挙して見る。

スーチンとユミは仲の良い友人。湖にピクニックに行くことになった二人は相談もしないのにスケッチブックを持って来た。“We don’t always have to tell each other, do we?” Yumi said. “You’re right. We just understand.” 二人は仲がいいので相談しなくても、お互いに考えていることが分かる (A-2・L13)。ナムホにはホーチンという仲の良い友人がいる。ある日、溺れそうになったナムホをホーチンが助けて……After that the two friends became even closer than before. (A-2・L7)。両親がいなくて貧しく、兄に養われている友人が入院をしたので、クラスメイト達が彼を援助するためにお金を集めることになった。He then emptied his pocket of the money he was carrying onto a desk. We all agreed and each of us did the same. The money put together this way amounted to about ten thousand won. (B-3・L10)。

次に、韓国およびソウル、韓国の歴史、人物、文化、社会を扱った題材を順に検討してみる。

Korea is my country. It is beautiful and has a long history. という書き出しで始まる“Korea, my country”は、ソウル郊外にある動物園や李氏朝鮮時代の風俗を再現した民俗村を紹介し、1988年のソウルオリンピックが開かれたメインスタジアムは世界で最も素晴らしい施設のひとつだと述べている。韓国の南東部に行くと、韓国第一の観光都市である新羅の王都だった慶州がある。そこには東洋最古の天文台、仏国寺、石窟庵がある。慶州博物館では石仏や有名なエミレの鐘などを見ることが出来る。韓国の西部に行くと、百済の王都だった扶余、公州がある。東海岸には景色が美しいことで有名な雪岳山があって、外国からも観光客が訪れる。南の海に浮かぶ島、済州島は青い海、すばらしい海岸線、花々などで、一年中多くの人々を魅了している (D-2・L13)。両親と韓国旅行をしているアンディがアメリカに出した手紙という形での韓国紹介。慶州に着いて仏国寺、石窟庵を紹介しこれから釜山に向かうといって手紙は終わっている (E-3・L12)。アメリカ人のジムが、Dear Diary という書き出しで手紙形式でのソウル紹介がある (E-3・L7)。その他、ソウルオリンピックにふれた題材がある。1988年に開かれたソウルオリンピックの開会式の模様が生き生きと描かれている題材 (C-3・L10)、ミンスが1988年第24回夏のオリンピックが開かれたソウルのオリンピックタウンを訪れる内容の題材 (E-2・L12) などである。

ジェインがアメリカのいどこに出した手紙の内容であるが、Did you know that Korean

後藤田 遊 子

history is over 4,300 years old? They have a great king, Sejong. He invented the Korean alphabet. You can learn it quite easily. Min-ho told me about another famous man, Admiral Yi Sun-shin. He invented the turtle ship a long time ago. Korean history is very interesting and I think the Korean people can be proud of it. (C-2・L10) と、韓国の歴史の古さと歴史的な国民的英雄である世宗大王、李舜臣についてふれている。人物に関しては、百済の武寧王が登場し、王陵から多くの国宝が出土したこと (D-2・L13) が紹介されている。近代の人物に関しては、ベルリンオリンピックのマラソンレースで金メダルをとった韓国人孫基禎 (Son Ki-chong) の紹介がある。金メダルをとったが韓国旗は上がらなかった。韓国はその時独立していなかった。Korea was not independent when he won the gold medal. (A-2・L15)。韓国の歴史的な偉業としては、750年程前に、韓国が世界で初めて金属印刷機を作った。このことにより、印刷に革命的变化が起こったことが紹介されている (D-2・L6)。

次に伝統的な年中行事の紹介である。秋夕は陰暦の8月15日にその年の収穫を先祖に報告し感謝するお祭りである (C-3・L9)。秋夕には、着飾って先祖の墓参りをし、夜になると満月の月見をするのである (D-3・L10)。韓国のその他の代表的な年中行事は3月1日が、1919年3月1日に日本からの独立を目指して行った独立運動記念日、8月15日は、1945年8月15日の日本からの解放と1948年の大韓民国成立を祝った祝日である (D-3・L10)。

次に、現代の韓国社会の状況を表している題材をいくつか挙げてみる。

韓国ではソウルに国立墓地がある。ここには記念塔があつて、その下に5,400の朝鮮戦争で亡くなった無名戦士が埋葬されている。そのほかに11万の戦士の名前が刻まれている。ここには毎年500万人が訪れている (D-3・L6)。韓国旗である大極旗の説明をし、We like our flag because we love our country. We love to see our flag fly in the wind all over the country. (D-2・L3) という題材。人口増加と天然資源の現象についてふれた題材では、The future of the world depends a lot on young students like you., そして、韓国の現在の人口が4,200万人であること、韓国は家族計画について、1970年代には2人っ子、1980年代には1人っ子を奨励してきたことがうまくいって、現在では人口伸び率が低下してきている (D-1・L13)、と述べられている。

現在の韓国の中学生の状況を表している題材を3点挙げてみる。

地下鉄で中学校へ通うミンホ。学校は9時に始まり、4時に終わる。放課後は時々図書館に行く。家へ帰ると復習をし、食事をとりまた予習の勉強をする。寝るのは大体11時ごろ (C-3・L1)。歩いて中学校へ通うユミ。夕方4時半には帰宅。家族も6時半には全員揃う。Evening is a happy time for the family. They get together and talk about the day. But Yumi does not sit with her family very long. She stays with them for only half an hour. She goes to her room and studies. Yumi goes to bed at eleven. (A-1・L10)

新学期の始めに、校長が生徒に訓辞をする。あと1年で中学を卒業して高校生になるわけだが、In one year, you will graduate from this middle school. Then you will start a new life

as a high school student. What kind of high school do you want to attend? Do you want to attend the one that helps you go to college? Or the one that helps you become a farmer, an engineer, or a businessman? You have to begin to think about your future.” (B-3・L1)

2. 外国および外国人

韓国の中学校英語教科書が取り上げる外国は、殆どがアメリカである。その他にはイギリスやカナダ、オーストラリアがわずかに登場するのみなので、ここではアメリカとアメリカ人にしぼって検討してみる。

まず、韓国人同様、アメリカ人の主な登場人物を見てみる。

テキサス州オースチンから来たマリー (A-1・L8) そしてユミの家にホームステイするジェインは、韓国のことを色々学びたくて1週間の予定で滞在中¹ (A-5・L5) で、兩人とも A-1、2、3 に登場。B-1、2、3 は各課に単発で登場するだけの人物。C-1、2、3 にはミンホのクラスに転入してきたジェイン・ブラウンとその家族が主な登場人物である。ブラウン氏は医者、ブラウン夫人は教師、マイクという弟がいる (C-1・L2)。ブラウン一家は日曜日の朝家族全員で家の掃除をする。ブラウン氏は庭で椅子とテーブルにペンキを塗っている。ブラウン夫人はダイニングルームで壁と床を磨いている。ジェインは台所で皿洗い、マイクは洗車 (C-1・L-13)。ブラウン一家は家族で動物園へ行く (C-1・L10)。ミンホの家族とキャンプに行く (C-2・L4)。D-1、2、3 には各課に単発で登場するだけの人物。E-1、2、3 には、ミンスの友人のアリスが主な登場人物。サンフランシスコから家族でソウルに来た。父はソウルのアメリカの銀行に勤務。姉と兄がいる (E-2・L2)。

アメリカ人の人間関係については、韓国人のそれに較べて、取り上げかたは少ない。親子、祖父母と孫に関しては、少ないながら取り上げてあるが、兄弟姉妹に関しては特別な取り上げかたはしていない。

単発で登場する家族、友人関係についての題材を列举してみる。

自分の誕生日を忘れて、叔父の家に夕方までいたリングが帰宅すると、リングに内緒で母親がリングの友達を大勢呼んで、リングのためにサプライズ・誕生パーティーを準備していた (B-2・L5)。エイプリルフールによく嘘をつくクリスが、今年は本当に地下室が前夜の雨で水浸しになっていることを発見して報告しても、両親はまたクリスのエイプリルフールだと思って信用しない (E-3・L3)。Mr. アルバートは息子のボブとその妹ジュリーに明日家族でピクニックに行くと知らせる。2人は大はしゃぎで、Julie danced around and kissed both her mother and father. 父親に感謝するジェリーに父親は、“Don’t thank me. Thank your mother. The plans were made by your mother.” (B-2・L11)。小学生のケンは、母親に、明日クラスでみんなの前で話をするので、何かおもしろいストーリーがないかと尋ねる (B-2・L7)。祖父母を訪れるジョージ。祖父母は明日車で1時間程の距離に住む孫のジョージが遊びに来るので、準備に余念がない (B-1・L9)。

後 藤 田 遊 子

友人関係を題材にした内容は少ないが、1つあげてみる。ジムとビルは雪合戦をしていて、ビルのボールがそばの家のガラス窓を割ってしまった。ジムはビルに校長に謝りに行くように言うが、ビルは行くのをいやがる、しかも校長にしゃべったら絶好だというので困るジム。What would you do if you were Jim? で終わる。友情と道德の問題に対して、生徒に問いかけをしているのである (D-3・L12)。

次に、アメリカ、ニューヨーク等の都市、人物像、社会・文化などを扱った題材を順に検討してみる。

“The United States of America” というタイトルでアメリカの紹介がある。アメリカは世界の主要国の一つであり、豊かで、活気にあふれ、自由な国である。アメリカに行けば、そのことが実感できる。韓国人が初めてハワイに移住したのが1902年で、現在アメリカには約100万の韓国人がいる。さらに、Many people are still coming to the United States of America from almost all parts of the world. Now all these race groups live side by side in America. In a school classroom, you can see students of many different races-white, black, yellow and brown. These people have made America a colorful and lively country. と述べ、次に、自由の女神の由来にふれ、The statue has always given a hope of freedom to many people who come to America in order to find a better life. The Statue of Liberty is loved by all Americans and by the people of the world who love freedom. と述べている (D-3・L9)。

ナムホの英語の教師が夏休みにアメリカを訪れ、生徒達に手紙でアメリカを紹介している。まずロサンジェルスについては、リトル・コリアと呼ばれるコリアタウンには多くの韓国人が住んでいて、看板なども韓国語が多い、時間があればディズニーランドやハリウッドにも行ってみたい。次の手紙ではまず、ボストンを紹介している。350年前清教徒たちがボストン近郊のプリマスに着いたこと、現在のボストンはハーバード大学や MIT といった有名な大学がある町として知られているなど。印象に残った都市はテキサス州のサンアントニオである。ここは多くのテキサス人がメキシコ軍と戦ってついに独立を勝ち取ったアラモの砦で有名な所である (A-2・L10)。チャンスクが叔父の住むロサンジェルスを訪れる。そこでコリアタウンや、ディズニーランドやサンディエゴのシーワールドやサンディエゴ動物園を訪れる (E-3・L10)。ミンスとミナエ兄妹は、グリーン氏と一緒にサンフランシスコを訪れる。グリーン氏の娘のリンダに案内されて、中国系アメリカ人が多く住むチャイナタウンやゴールデンゲイトブリッジを訪れる (E-3・L1)。“Aloha, Hawaii” というタイトルの題材は、ハワイの案内的記述である。ハワイには10万人の韓国系アメリカ人がいる (D-3・L7)。

アメリカの人物像としては、アブラハム・リンカーンの話が取り上げられている。

“In the White House” ではリンカーンが忙しい中にも良き父親だったことが語られている (A-3・L4)。アブラハム・リンカーンの “The government of the people, by the people, for the people shall not perish from the earth.” というゲティスバーグの演説を生徒に暗記するよう求めている題材もある (B-3・L4)。アブラハム・リンカーンが髭を生やすようになったきつ

かけの物語も題材として取り上げられている (C-2・L12)。

次にアメリカの年中行事としては、サンクスギビングデイが取り上げられている。

There are many kinds of races living in the US. These people left their country to live a better life in America. Some people came to have more freedom. The first Thanksgiving Day has something to do with some of these people. と、サンクスギビングデイの由来について説明している (A-2・L13)。サンクスギビングデイは収穫を神に感謝する祭りである。家族が集まって、伝統的な食事をする (C-3・L8)。11月の第4木曜日がサンクスギビングデイである。収穫を神に祈り、ターキーや伝統的な食事を楽しむ (D-3・L10)。アメリカの他の年中行事に関しては、独立記念日、クリスマス、イースターなど (D-3・L10)。

3. 異文化交流

題材の多くが韓国人とアメリカ人との交流で構成されている韓国の中学校英語教科書は、彼らを通して異文化交流のための環境設定をしているといえる。韓国人とアメリカ人の主な登場人物たちが様々な場面で交流しているが、ここではお互いの社会・文化にどうふれあっているかに焦点をあてて、題材を検討してみる。

ミンホの友人ジェインがアメリカのいここに出した手紙には、Before I came to Korea, I saw many pictures which my grandpa took during the Korean war. There were some huts and almost no roads then. I thought Korea was still a poor country. But Korea has developed so much since then. Now most parts of Korea are very modern. (C-2・L10)。

両親と韓国旅行をしているアンディがアメリカに出した手紙には、If I hadn't visited Korea, I couldn't have seen so many wonderful things in this small country. (E-3・L12)。
ミンスと知り合いのジムは、My plane has just arrived in Korea……。It looks just like a postcard. ソウルの地下鉄は新しくきれいで、I bet the people in New York City wish they had a subway like this. オリンピックが開かれたオリンピックタウンについては、The baseball stadium is better than any of the ones I have seen in the United States. (E-3・L7)。以上、アメリカ人の見た韓国の印象が述べてある。ミンスが1988年第24回夏のオリンピックが開かれたソウルのオリンピックタウンにアリスとアリスの父親を案内するという内容もある (E-2・L12)。

両国に関する様々な社会・文化比較を見てみる。

ユミの家にホームステイするジェインがユミやユミの父親とニューヨークとソウルについて話をする。両都市とも大勢の人々が暮らし、車が混雑し、物価が高いなどと共通する点が多くある。しかし歴史的にはソウルは500年の歴史を持ち、アメリカはわずか200年の歴史しかなく、500年以上の歴史を誇るものは何もないとジェインは言う (A-2・L5)。ホーチンはジェインに韓国ではファーストネームが後ろに来ることを教える。また、アメリカでは兄弟姉妹に対して年上、年下に関わらずファーストネームで呼ぶが、韓国では年上にはお兄さん、お姉さんと呼ぶと話し合う (A-2・L4)。スーチンとマリーが両国の食事について話をする。韓国でははしと

スプーンを使うが、アメリカではナイフとフォークを使う。アメリカのパンは韓国のごはんのようなのだとお互い納得する (A-1・L5)。ジェインはミンホに韓国の歴史・文化を教えてもらい、アメリカのいところに手紙で教わったことを伝える。その中で、韓国の食文化の代表、キムチにふれる。It is the hottest food that I have ever eaten. When I first ate it, smoke nearly came out of my ears! また、ナイフやフォークは使わず、They use chopsticks. At first I couldn't use them, but now I can. (C-1・L10)。ビルはソウルの大学で韓国文化を学んでいる。キム氏は彼のアドバイザーである。彼はキム氏にアメリカの教育制度について説明する。アメリカでは16才まで義務教育であること。公立の学校は殆どが共学であること、などを説明する。韓国では公立の高等学校で共学は少ないとキム氏は答える (B-3・L12)。インスとジェインが韓国とアメリカの年中行事について話をする。クリスマスを除くと、アメリカでは独立記念日が最大の国民の休日であり、これに匹敵するのは韓国では3月1日の独立運動記念日と日本からの独立と1948年の韓国の誕生を祝う8月15日の記念日である。また、アメリカのサンクスギビングデイにあたるのは、韓国では秋夕で、ともに収穫を感謝する祭りである。アメリカでは収穫を神に感謝し、韓国では先祖の墓まいりをする (D-3・L10)。サンクスギビングデイと秋夕を比較する題材は他に、A-3・L13、C-3・L9でも取り上げられている。アメリカには5月に「母の日」があるが、それに相当するのは、韓国では5月の「両親の日」である。この日は、アメリカではカーネーションを身につけて、母親への感謝の印にするが、韓国では両親にプレゼントをする (A-2・L6)。

アメリカを紹介する題材であるが、アメリカを紹介しながら、アメリカの韓国社会にふれた題材を検討してみる。夏休みにアメリカを訪れ、生徒達に手紙でアメリカを紹介したナムホの英語の教師が、ロサンジェルスのリトル・コリアと呼ばれるコリアタウンでは多くの韓国人が住んでいて、看板なども韓国語が多いという記述をすでにした。タイアログでは、People from all over the world went to America for freedom. They have fought to keep their freedom. It does not have a long history, but it has become a strong country. They are proud of their history, too. アメリカが自由の国であり、歴史は浅いが強い国であるという印象を述べている (A-2・L10)。チャンスクが叔父の住むロサンジェルスを訪れる題材であるが、ダイアログで、ロサンジェルスでは何を見たいかと叔父に聞かれて、彼女は、“A lot of Korean-Americans live here, I understand. How do they make their living?” “Then you may want to see Koreatown.” と、叔父は彼女をコリアタウン連れていく。本文では、…… and there are plenty of things that remind her of home. There is a long street near her uncle's house where the signs are all written in *Han-gul*. She can still eat *kimuchi* and *ramyon* here and she even had some *kalbi* the other night. (E-3・L10)。A-2・L3に登場するマイケルはアメリカのカリフォルニアに親と住む韓国人である。前述したが、マイケルはアメリカの少年と同じようなスポーツを好むが、違う点は彼がテクンドー（韓国の空手）を習っていることである。家では韓国語を話す。大極旗（韓国の国旗）を部屋に飾っている。そ

うした彼を見て、父親は息子を自慢に思う。

Ⅲ．韓国中学校英語教科書における民族・文化意識

Ⅱ章で取り上げた3つの項目を、1．人間関係、2．国・社会・文化の2つの観点から整理し、韓国の中学校英語教科書における民族・文化意識を考察してみる。

1．人間関係

韓国の主な登場人物の家族を見ると、祖父母、両親に2人の子供といった設定である（A-1・L13、C-2・L9、D-1・L11）。しかも、父親の職業が事業を営んでいた（A-1・L12）、ソウルの高層アパートに住んでいた（A-1・L15）⁶⁾、友達を招いて家族で誕生パーティーをしたり（C-1・L11）、アメリカ人の家族と家族同士でつきあったり（B-2・L4）、アメリカ人をホームステイさせていたり（A-2・L5）するような家族である。家族構成を検討すると、父と息子、祖父母と孫、兄弟姉妹といった関係が非常に緊密に保たれている様子がうかがえる。特に、父と息子の緊密さ（B-3・L3、A-2・L3）、祖父母と孫息子の関係を取り扱った題材が多く、祖父母に対しては敬愛の情が描かれている（A-2・L9、C-2・L9、D-1・L5）。兄弟姉妹の場合は、兄弟は姉妹に対して、緊密であるが良き道徳的行動の模範である（A-1・L15、B-2・L3、B-2・L13、B-3・L7、E-2・L3）。友人関係もまた、緊接すぎるほど仲のよい関係である（A-2・L13、A-2・L7、B-3・L10）。

彼らの人間関係とその緊密さには韓国の儒教的人間関係の特徴があるように思われる。まず、韓国の人間関係を規定する原理には、父系制、つまり、父、息子（長男）を通して伝えられる血縁関係がある。祖先からの出自を父から息子へ、と子孫に伝達する役目である。父と息子の関係の緊密さにはそうした背景が見逃せない。次にもう1つの基本的原理に年令序列がある。目上、目下の上下意識がはっきりしている。年をとるほど尊敬される度合は増す。年老いた親への心配りなどもこうした意識が働いているといえる。兄弟姉妹の関係をみると、長男は別格であるが、長男として弟や妹の面倒を見るという責任がある。また、男女有別という行動規模の中で、姉妹は何でも自由に話せる数少ない女性である。姉は弟、妹に対しては母親代りの面倒をみる立場である。序列意識から解放された同輩関係としての友人は非常に打ち解けた関係となる（伊藤、1985：99－132）。こうした視点から考察すると、韓国の家族間、友人間の身近な話題の背景に韓国の儒教的人間関係の価値観・道徳観といった意識が考察できる。しかし、他方において、都会に住む核家族が、同居しない田舎の祖父母を訪れる（C-2・L9）、家族で誕生パーティーをする（C-1・L11）、アメリカ人の家族と家族同士でつきあう（B-2・L4）、アメリカ人をホームステイさせる（A-2・L5）、父親であることを隠して息子の指導をする（B-3・L3）といった記述からは、伝統から抜け出した近代的（アメリカをモデルとする）な都会の家族を意識しているようにも考察することができる。

アメリカ人の人間関係は、韓国人の人間関係ほど多く題材に登場しない。その分、韓国人の人間関係に重点を置いているともとれるが、少ないながらも登場する人間関係を考察してみる。

後 藤 田 遊 子

家族構成から見ると、核家族で、子供は2人である (C-1・L2、E-2・L2)。家族は、一家全員で行動する内容が多い (C-1・L10、L13、C-1・L4、B-2・L11)。また、母親と娘 (B-2・L5)、母親と息子の緊密さ (B-2・L11、B-2・L11)、妻をたてる夫 (B-2・L11) の姿がある。孫息子の到着を待つ祖父母は2人が分担をして準備している (B-1・L9)。

教科書に表現された韓国とアメリカの家族を比較すると、家父長的韓国の家族の人間関係と、自由平等の国アメリカの公平な雰囲気核家族の人間関係の違いを読みとることができると同時に、韓国の家族の描写において、全体的に伝統と近代のバランスをとる配慮が考察される。

アメリカの友人関係に関しては、題材が友情と道徳といった問題に焦点を合わせていて、登場人物がアメリカ人でも韓国人でも良いような内容なので、アメリカ人の人間関係というより、道徳意識の高揚と取れる。ここでは、題材に取り上げられていない、呼び名に目上、目下の区別がないアメリカの兄弟姉妹、友人関係と、題材で多く取り上げられている韓国の兄弟姉妹、友人関係は対比できない。

2. 国・社会・文化

韓国を紹介する題材は、韓国の観光名所と、首都ソウル (オリンピックタウンを含む) である。ここで使用する韓国の中学校英語教科書が編集された、1980年代後半の韓国社会では、1987年に盧泰愚大統領の誕生で民主化を歩みだし、翌1988年に第24回夏のオリンピックがソウルで開催された。首都ソウルは、今や、李氏朝鮮500年の歴史のなごりの宮殿から、植民地時代の建造物、1970年代以降の高層ビルなど新旧の建物が共存する都市であることが紹介されている (A-2・L5、B-2・L4、D-2・L13、E-3・L7)。地下鉄は1974年に1号線が開通以来、地下鉄網は広がる一方で、ソウルオリンピック開催決定以降は、大オリンピック競技場 (オリンピックタウン) (C-3・L10、E-3・L7、E-2・L12 でふれている) が建設されるなど先進国並みの大都市に成長した。これは1970年以降の高度経済成長と、経済成長が生み出した経済的ゆとりの賜である。また、オリンピックを前後して海外との交流も拡大し、国際社会への参加意識という意味での「国際化」が浸透していった (五十嵐、1993: 3-17)。1988年には、外国人の来訪が増えたばかりでなく、韓国人の海外渡航が自由化された (A-2・L10、E-3・L1、E-3・L10 はアメリカ旅行記である)。家族計画も功を奏して2人っ子が定着してきている (D-1・L13)。教科書に登場する韓国の家族は、ある意味で都会の中流階層を意識した設定ではないかと思われるが、それも韓国社会のゆとりが反映されているのではないかと推察する。外国人観光客が訪れる慶州や、扶余のような歴史的な名所旧跡 (D-2・L13、E-3・L12)、リゾート観光の済州島 (D-2・L13)、ソウル、オリンピックタウンを紹介する内容にも、同様のゆとりが推察できる。

アメリカを紹介する題材は、まず、アメリカは多民族国家であり、自由の女神に象徴される自由の国であること (D-3・L9)、歴史は浅いが、強い国であり、国民はそのことに誇りを持っている (A-3・L10) といった概論。それから、世界的な大都市ニューヨーク、ロサンゼルス、サンフランシスコ、そして、ボストン、アラモの砦があるサンアントニオの紹介がある。

首都ニューヨークは、ソウルよりはるかに大きい都市である (A-2・L5)、ロサンジェルスには韓国人がアメリカで1番多く住むコリアタウンがある (A-2・L10、E-3・L10)。ボストンは清教徒がたどり着いた場所として、アラモの砦は独立を勝ち取った場所として (A-2・L10) 紹介されている。他に、ロサンジェルス、サンフランシスコの観光案内記述もある (A-2・L10、E-3・L1、E-3・L10)。

韓国の紹介が、経済発展を遂げたゆとりと誇りを意識していることが読みとれる一方で、アメリカの紹介は、単にアメリカを、英語を母国語とする外国として紹介したり、観光案内的に紹介するのではなく、アメリカが自由を守り、独立を勝ち取った国、強い国という印象を与えている。1945年の日本からの解放以降、アメリカの韓国での影響力は大きいものとなっていき、英語教育が膨張していったのも、当然アメリカの影響である (クオン、1991:26)。そういった点が背景にあることを理解しておくことが自然であろう。アメリカ紹介のもう1つの視点は、アメリカ在住韓国人の紹介 (D-3・L7、D-3・L9) である。ロサンジェルスのコリアタウンはアメリカ最大の韓国人コミュニティである (A-2・L10、E-3・L10)。多民族が隣り合って住み、学校でも色々な人種が混じり合って勉強している。そして、こうした人々がアメリカをカラフルで活気に満ちた国にしている (D-3・L9) と多民族国家、アメリカの特徴を述べている。

韓国という国の歴史を考えると、常に近隣の列強国に侵略され続けた長い歴史を持つ国だということを忘れることは出来ない。1910年から1945年までは日本の植民地だったが、教科書で反日感情にふれた題材はない。しかし、国の独立心や民族のアイデンティティーが意識されている記述は見られる。まず、韓国の歴史が4,300年以上であること、歴史上の人物に、李氏朝鮮時代に韓国独自のハングル文字を作った世宗大王や、任辰倭乱の際に亀甲船を作って秀吉の軍を撃退し、朝鮮の救国英雄と称される李舜臣のことが記されている (C-3・L10)。李舜臣は、国民学校 (小学校) の教科書に頻繁に登場する国民的英雄である (ユン、1989:65)。世宗は一万ウオン札に李舜臣は五百ウオン札に肖像が描かれている。李舜臣は日本の朝鮮侵略を阻止した抗日の英雄として今も、ソウルの玄関、光化門ロータリーに銅像がそびえ立っている。マラソン選手の孫基禎は金メダルを獲得した (A-2・L15) が、この快挙を報道した東亜日報が、孫選手の日丸を黒々とぬりつぶした写真を掲載したことで、その当時、日章旗抹殺事件として知られたものである。この題材は反日感情でなく、「その時韓国は独立していなかった」という歴史認識だけにとどまっている。

アメリカの歴史の取り上げ方にも、自由・独立を意識した記述が考察される。アメリカの歴史は清教徒が自由を求めて350年前にニューイングランドにたどり着いたこと (A-2・L10)、自由の象徴が自由の女神であること (D-3・L9)、アラモの砦がメキシコからの独立戦争だったこと (A-2・L10)、アブラハム・リンカーンが奴隷を解放したことで有名であること (A-3・L4) などである。アメリカの最大の祝日の1つである、独立記念日と比較して、韓国の祝日には、3月1日の民族独立運動記念日と、8月15日の、1945年8月15日の日本からの解放と1948

年の大韓民国成立を祝う記念日があるという記述からも自由・独立を意識した歴史認識が見られる (D-3・L10)。

韓国文化を紹介する題材で、特徴的なのは、秋夕であろう。これに対比する形でアメリカのサンクスギビングデイが取り上げられている (A-3・L13、C-3・L9、D-3・L10)。どちらも、収穫感謝祭として比較されているが、秋夕は父系親族が集まり先祖のための儒教儀礼をし、着飾って墓参りに出かけ、ごちそうを楽しむ日本でいうお盆のような年中行事であるが、1年中で最も重要な先祖祭祀の日であることを見逃してならない。サンクスギビングデイの場合は、自由を求めてアメリカに渡ってきた清教徒達が飢えから解放され、神へ収穫を感謝したのが始まりである。クリスマスとともに、伝統的な祭りであり家族揃って祝う。秋夕は、現代にも継承されている韓国の儒教的儀礼生活の一部であり、また、祖先祭祀を守ることで、父系血縁集団のアイデンティティーが保たれている。現代韓国社会にふれた題材で中学生の1日が紹介されていた (A-1・L10、C-3・L1) が、受験競争が厳しい韓国社会を反映している題材のように読めるが、よく勉強している様子が描かれていただけに、それに対応するアメリカの中学生の生活が題材として取り上げられていないのが残念である。

韓国、アメリカの相互理解はどうであろう。アメリカ人の韓国理解は、韓国の文化を学びにきたジェインや (C-3・L10)、韓国を訪れているアメリカ人の手紙、日記 (E-3・L7、E-3・L12) を通して語られている。これらを総合すると、韓国がアメリカより古い歴史を有する国であること、今ではモダンな現代都市に発展していることなどがアメリカに向けて発信されている。韓国人のアメリカ理解は、アメリカを訪れた韓国人の手紙 (A-2・L10) や、旅行記 (E-3・L1、E-3・L10) を通して知ることが出来る。II章の2でふれたようにアメリカは歴史は浅いが、自由で強い国、多民族国家という認識である。しかし、それ以上に韓国人のアメリカ理解の強調点は、アメリカの韓国人コミュニティの存在である (A-2・L10、E-3・L10)。韓国のアメリカ移民の歴史は20世紀初頭に始まる。ハワイは韓国の移民第一号者たちがアメリカに第一歩を記した場所である。約100万人の韓国人がアメリカで暮らしている。ハワイには約10万人が暮らす (D-3・L7)。ロサンジェルスのコリアタウンが公式名称として認められたのは1980年である。コリアタウンはアメリカ最大の韓国人コミュニティで、在米韓国人のアイデンティティーの拠り所であろう。韓国にいるようなふんいきがあり、韓国人なら必ず訪れる場所であろう。カリフォルニアに親と住むマイケル少年は韓国人のアイデンティティーの象徴であろう。それは、彼がアメリカに住んでいても、韓国語を忘れず、韓国の国旗を部屋に飾り、祖父母に会いに韓国を訪れることで推察できる。韓国人のアメリカ理解の一部にアメリカ在住の韓国人、あるいは、韓国系アメリカ人理解があるのである。

韓国の生活文化、アメリカの生活文化比較に関しては、韓国人、アメリカ人の登場人物の間で交わされる会話から、名前の呼び方の違い (A-2・L4)、食習慣の違い (A-1・L5、C-2・L10) など日常の基本的な事柄が、平等に受信、発信されていることが読みとれる。

お わ り に

本稿の目的は、韓国の中学校英語教科書における民族・文化意識を考察することであった。具体的には、人間関係、国・社会・文化という観点から、韓国とアメリカを対比し、意識を読みとる試みを行った。

人間関係をみると、儒教的価値観をもった韓国の家族の人間関係と、アメリカの自由、平等な雰囲気をもった核家族の人間関係に文化的相違を読みとることができる一方、伝統から抜けだし、国際化時代の異文化交流に対応できる、バランスのとれた現代韓国の家族の関係を設定する配慮が考察された。

社会・文化の記述であるが、先進国への仲間入りを間近に控えた韓国の誇りが、国や都市の紹介に読みとれた。韓国の歴史の記述には自由、解放、独立といった意識が考察された。アメリカやアメリカの歴史を紹介する記述にも、自由、解放、独立に対応するような配慮が読みとれた。その他の文化紹介にしても、双方にバランスの取れるような配慮が見受けられた。たとえば、韓国文化で特に紹介した秋夕は、韓国の儒教的儀礼生活の一部であり、父系血縁集団のアイデンティティーを示す重要な祭りである。これを、アメリカのサンクスギビングデイと対比させ、収穫感謝として、一方は先祖に、他方は神に感謝するといった異文化理解に発展させていた。

相互の文化交流では、日常の基本的な事柄が、韓国人とアメリカ人との間に平等に受信、発信されていることが読み取れた。最後に、アメリカの韓国人、韓国人社会が紹介されていたが、アメリカの多民族国家としての懐のひろさと、韓国人の民族意識が読みとれる記述であった。

こうして見てくると、韓国の中学校英語教科書は、自民族・自文化を強く意識した内容の題材がある反面、アメリカ社会・文化との交流にうまく対応できるような内容設定がしてあることが考察される。これは、経済発展を遂げ、国際化時代を意識する韓国が、英語という特殊な教科書の中で、韓国の伝統社会・文化と近代社会（アメリカをモデルとする）を併存させようとする意識の現れではないかと推察するが、今後も引き続き韓国の中学校英語教科書を分析することにより、ここでの研究をさらに発展させていきたい。

注

- (1) 1992年10月31日付け日本経済新聞。
- (2) 洪賢秀さんはお茶の水女子大学人文学研究科教育学専攻の博士課程の大学院生。
- (3) 私の韓国語の翻訳，その他に関しては，NHK 海外放送アナウンサーの石花賢さんに指導をお願いした。
- (4) 以後，太林出版はA，太林出版1，2，3年はA-1，2，3で表す。同様に，東亜出版はB，智学社はC，教学社IはD，教学社IIはEで表示する。L1は1課を表す。例（A-2・L1）（太林出版2年1課）

韓国の中学校英語教科書はダイアログや本文の会話や内容が，非常に自然で，現実味がある。文法項目や単語の制限をあまり意識せず，自然な言葉の展開に忠実に英文を駆使しているからである。本稿では，英文のほうがよく内容が伝わると判断した箇所はそのまま英語で紹介する。

後 藤 田 遊 子

(5) ソウルの高層アパートに住むこと自体が中流だという捉え方がある (滝沢, 1988: 203).

参 考 文 献

- 五十嵐暁郎: 『民主化時代の韓国』世織書房, 1993.
李 圭泰: 『韓国人の情緒構造』新潮選書, 1995.
伊藤亜人: 『もっと知りたい韓国』弘文社, 1985.
クオン五良: 「韓国の英語教育と韓国式英語」『アジアの英語』くろしお出版, 1991.
高 賛 侑: 『アメリカ・コリアタウン』社会評論社, 1993.
滝沢秀樹: 『韓国社会の転換』御茶の水書房, 1988.
朝鮮史研究会: 『朝鮮の歴史』三省堂, 1995.
沼田裕之: 『教育目的の比較文化考察』玉川大学出版部, 1995.
文 部 省: 『中学校教育課程』大韓教科書株式会社, 1987.
『MIDDLE SCHOOL ENGLISH 1, 2, 3』太林出版, 1994.
『MIDDLE SCHOOL ENGLISH 1, 2, 3』東亜出版, 1993.
『MIDDLE SCHOOL ENGLISH 1, 2, 3』智学社, 1994.
『MIDDLE SCHOOL ENGLISH 1, 2, 3』教学社 I, 1994.
『MIDDLE SCHOOL ENGLISH 1, 2, 3』教学社 II, 1994.
ユン学準: 『韓国の教科書の中の日本と日本人』一光社, 1989.
渡辺吉銘・鈴木孝夫: 『朝鮮語のすすめ』講談社, 1981.
L. A. サモーパー他: 『異文化間コミュニケーション入門』西田司他訳, 聖文社, 1983.